繁藤月報

〒789-0583
高知県香美市土佐山田町平山 1748
天理教繁藤大教会
TEL 0887-57-9207／FAX 0887-57-9246

神の身体と天然自然

シリーズ「かしもの・かりものの理」を深く掘る vol.3

◆言葉にできない違和感

このよふハ一れつハみな月日なり
にんけんハみな月日かしもの　（おふでさき 6号 120）

人間というものは、身はかりもの、心一つが我がのもの。
たった一つの心より、どんな理も日々出る。
（おさしづ 明治22年2月14日）

かしもの・かりものの理が語られるとき、よく引用される神言である。２つの神言の要点をまとめると左記の通りだ。

①この世は神の身体
②人間の身体は神様からの「かりもの」
③心一つが我のもの

私自身このことは何度も耳にしてきたし、人にも説いてきた。しかし「かしもの・かりものの理」と向き合うときに、なぜ①もセットになっているのか。②と③だけでは駄目なのか。現にかしもの・かりものの理を話する際、②と③の説き分けだけになっていることがままある。

①～③をそれぞれ単体で考えれば、頭では理解できる。しかし、①だけが少し浮いているように感じてしまう。言葉で説明するのが難しいのだが、なぜかすっきりしない感覚が長年胸の奥でつかえていた。

◆太陽を拝む

話は変わるが、先月岡山市にある黒住教本部の神道山を参拝してきた。ここ2～3年、ひょんなことから、黒住教の要職の方とご縁があり、繁藤にお越しいただいたり、おぢばも二度ほど案内をさせてもらっていた。このたびはご招待をいただき、初めての参詣となった。

黒住教では毎朝、日の出の太陽を拝む「日拝」を行っている。せっかくならと、早起きして朝5時ごろに神道山へ赴いた。日拝とは、日の出の太陽を呑み込む思いで「御陽気をいただきて下腹におさめ天地とともに気を養う」というものだ。（黒住教ホームページ参照）

その日、とても美しい日の出を拝むことができ、心が洗われるような感動を得られた。（右下の写真）

ふいに、昔のことを思い出した。天理の教会本部で勤務している頃である。私はいつも朝づとめの後に東礼拝場の濡れ縁から、朝日を浴びながらお日様に手を合わせていた。太陽を拝む習慣は天理教にはないが、「目の当たりに仰ぐ月日こそ親神の天にての姿である」と教えられている。ただ、そんな崇高なことを考えて実践していたわけでなく、無心になって朝日を浴び、自然に溶け込む感じが心地よかったからだ。

余談ではあるが、セロトニンという幸せホルモンをご存知だろう

か。精神を安定させ、ストレスを軽減する効果があるものだ。特に効果的なのが日光を浴びることである。他にも、一定のリズムで同じ動作を繰り返すことも、セロトニンの分泌が促進される。

まさに朝夕のおつとめは、医学的にも心身に非常によい影響をもたらすものだといえるだろう。

◆「しぜん」と「じねん」

閑話休題（かんわきゅうだい）、「この世は神の身体」についてだ。この世は親神様の懐住（ふところずま）いとも表現される。ここで一つ、教祖の口伝を紹介したい。

教祖は、「この道は、人間心でいける道やない。天然自然に成り立つ道や。」と、慶応二、三年頃、いつもお話しになっていた。

（稿本天理教教祖伝逸話篇　一七　天然自然）

慶応二、三年頃というと、ちょうどおつとめをお教えくださった時期である。その中でも、「自然」というワードに着目したい。現代辞書によると自然とは、山や川、草、木など、人間と人間の手の加わったものを除いた、この世のあらゆるものを意味する。

しかし、教祖御在世当時の「自然」という言葉の捉え方・概念は、今と違ったものではないだろうか。これが今回の問題提起である。

コロナ禍の頃、あるシンポジウム［※1］に参加したとき、哲学者の内山　節（たかし）氏の興味深い発言が今でも印象に残っている。

古来、大和言葉［※2］に「自然」という言葉はなく、これは中国から輸入されたものである。そしてその読み方は「しぜん」ではなく「じねん」であった。その「じねん」は「自ずから」という意味で、使い方としては「自然な成り行き」とか「自然に目が覚める」というようなニュアンスで、形容詞もしくは副詞として使われる言葉であった。

現在の意味、名詞としての「自然」は明治以降の概念である。ようするにNature（ネイチャー）を当てはめた翻訳語である。ちなみにNatureをどう訳すかというときにいくつかの候補があり、天然、天地、森羅万象という言葉であった。

［※1］　しぜん　いのり　いのち

～哲学者・思想家・僧侶・山伏の対話～

［※2　大和言葉］　漢語や外来語が入る前から日本語にあった言葉

◆　分かりきることのできない森羅万象

驚くべきことは昔の日本において、人間と自然を別物の客観的対象として切り離して捉える概念がなかったということである。もっというと、科学的に自然を観察し理解しようとしたり、コントロールしようという発想自体がなかったのだ。

なぜならば、自分自身は自然との関係の中で自ずから出来上がっている人間であり、また自然の側も人間との関係の中で自ずから現れてくる現象であったからだ。それぞれ独立した事物というよりも、その関係こそが本質であった。人間の身体も自然物であり、山川草木や虫鳥畜類と同列に、関係性の中に溶け込んでいるものであった。そもそも人間と自然をわける必要がなかったのだ。

明治以降、Nature という言葉に代表される西洋的な思想が浸透し、文明の発達も相まり科学的かつ唯物論的（ゆいぶつろん）［※3］に自然を理解・支配しようとする営みが拡大してきた。自然の関係の中にあるはずの

人間生活は、コントロール可能な人工的空間・事象の割合が大きくなり、いつしか自然は人間と切り離されたものとなってしまったのだ。

しかし、どれだけ科学が発達しようとも、森羅万象のすべてを分かりきることはない。むしろ、分からないことだらけの自然の中で生きていることを思い知らされる。そう考えると、人間と自然は切り離して考えるものでもなければ、二項対立の関係性でもない。これらを人間には到底分からないものとして受け入れたときこそ、親神様の懐住まいの中で、天然自然に成り立つ神秘を感じることができる。

「自然」という言葉一つとっても、その捉え方や本質は時代によって異なることに、あらためて気づかされた。

[※3 唯物論] 世界を構築しているものの根源は「物質」である

繁藤で採れた山菜

◆神にもたれ、神を知る

結びに、教祖の口伝を紹介したい。

地球は、人間の体の如くや。金類（きんるい）の出るは、人間の身にすれば、爪や。温泉といふは、キウショのやうなもの、草木は毛の如く、水道は血のすぢやで。おなじ理やで。

正文遺韻（諸井政一 著）

金類・・・金属に同じ　キウショ・・・急所　すぢ・・・筋

かしもの・かりものの世界を表す、なんとダイナミズム**[※3]**あふれる表現だろうか。

かしもの・かりものの理は、単に身体をお借りしていることへの感謝だけにとどまらない。人間と自然という至妙な関係性の中で、神の懐に包まれている親心を味わい、心身ともに神にもたれることによって、かしもの・かりものの理を知るという境地につながるのではないだろうか。

朝のおつとめで、
朝日を拝むように、希望を胸に新しい一日をむかえる。
夕のおつとめで、
花鳥風月を味わい、湧き出る感謝とともに一日を終える。

かしもの・かりものの世界に浴し、そんな毎日を送ることができれば、どんなに素晴らしいだろうか。

このたび、コラムに理の思案をまとめることによって、冒頭の私の胸のつかえはだいぶ取れたように感じる。内容の多くが抽象的な悟りであり、文力が足らず分かりずらいことだらけであっただろうが、どうか上手に受け取っていただき、少しでも皆様の日常の糧になることを願いたい。

[※4 ダイナミズム] 内に秘めた力強いエネルギー。動的なさま。

立教一八八年五月一日
天理教繁藤大教会長
坂本輝男

【立教百八十八年　四月　祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には、このよふを初た神の事ならば　せかい一れつみなわがこなりと子供可愛い親心から、よふきぐらしへのたすけ一条の道をお教え下され、長の年限変わる事なき御守護のまにまに、日々常に一れつ子供の成人をお導き下さいます御慈愛の程、思えば誠に有り難く勿体ない極みで御座います。私共は及ばぬながらも思召に添わせて頂けるよう日夜御恩報じを思い念じて勇んでつとめさせて頂いておりますが、その中にも今日の良き日は、当教会にお許し頂いた御祭日で御座いますので、只今よりおつとめ奉仕者一同座りづとめてをどりを勤めて、四月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には今日もお引き寄せ頂きましたよふぼく・信者たちが共におうたを唱和し、去る十八日に御存命の教祖の二百二十七回目の御誕生日を迎えられた御祝と共に、日頃賜る篤き御厚恩に拝謝して、尚も親心にお縋りして参拝む状をも御覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

また本日は、川之江大教会部属御空分教会長夫人の旭和世先生に御巡教頂き、おつとめ後に御講話を頂戴致します。御講話をしっかりと拝聴し、目の当たりにしてお見せ頂くふしに対して、心の持ち方・納め方・たんのふの心を学ばせて頂き、成人の歩みをさらに進めさせて頂く契機とさせて頂きます。

私共を初め教会長・よふぼく一同は教祖百四十年祭への仕上げの時旬に忘えて、励まし合い教祖のひながたを心から離さず、たすけ一条に邁進させて頂く決心で御座います。何卒この心定めをお受け取り下さいまして、この上共にふしから芽が出る旬の追い風を賜り、人々の心の成人を速めて、一日も早く陽気ぐらしに勇み立つ世の状にお導き下さいますよう御守護の程一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十八年四月　祭典役割》

祭主	大教会長		
指図方	坂本久徳		
扈者	村上英士		
扈者	藤田一憲		
賛者	佐々木惠		
賛者	村上由高	八足出し	田村聡佐
			立花真一郎
			佐々木惠
			田村省悟
			村上由高
			空閑慶吾
	座りづとめ	てをどり前半	空閑一将
男	大教会長		村上由高
	前大教会長		藤田　誠
	田村辰久		黒河明大
	宮田教一		秋月英希
	大教会長夫人		佐藤明子
女	前会長夫人		為田賢子
	黒石伸子		村上　綾
	坂本久徳		武市まち子
	田村久徳		宮田みなみ
地方	村上英士		佐藤成彦
	宮田孝道		空閑一教
笛	藤田憲明		空閑慶吾
チャンポン	安部道郎		宮田教一
拍子木	為田基紀		村上　修
太鼓	藤田一憲		前田　豊
すりがね	佐藤栄治		田村睦美
小鼓	藤田洋美		佐藤文代
琴	村上美栄子		阪本喜代子
三味線	佐藤順子		田村育与
胡弓	旭和世先生		空閑真理代
神殿講話			

【神殿講話】
（5月）大教会長
前席　黒石　伸子

【しげとうtime　おかえり講話】
（5月）坂本　信子

【教会長神殿当番】
（5月）北大津・繁山
（6月）関守・高昭

【詰所教養掛】
（5月）田村　省悟
（5月補佐）坂井　博文・坂本　喜子
（6月）立花　真一郎
（6月補佐）田村　睦美

【詰所事務当番】
（5月）佐藤　孝彦
（6月）黒河　明大
28・29日　小長　史慶・村上　修

【ひのきしん】
○本部食堂ひのきしん
10月1日～15日（本　山）
○婦人会詰所ひのきしん
5月25日～26日（種崎2名）

【婦人会・少年会・青年会費納入のお願い】
令和7年度の各会費の納入を、左記の通りお願い致します。
・婦人会　一名称　六〇〇〇円
・少年会　一名称　六〇〇〇円
・青年会　一名称　六〇〇〇円
納入については、各会責任者もしくは会計担当者にお納め頂き、必ず領収証を受け取って下さい。やむを得ず詰所事務所にお預けになる場合は、詰所にて預かり証しか出せませんのでご留意下さい。

【「たちばな会おぢば帰り団参」について】
○6月29日(日)
10:30　本部神殿におつとめ
11:30　東講堂におかえり講話
弦楽演奏
12:40　昼食弁当配布
○帰参御供(29日の昼食弁当含む)
大人・千円(中学生以上)
小人・五百円(小学生以下)
※2回目の帰参予定報告書を同封（教会のみ）しております。受け入の準備の都合上、5月20日迄に大教会へ提出して下さい。
○団参チラシ（繁藤版）
繁藤独自の団参チラシを作成し、同封しています。裏面は各教会の計画等が印刷可能です。お声がけにご活用下さい。チラシが必要な方は枚数とともに大教会に申し出て下さい。

【婦人会】
◇天理教婦人会第107回総会
◇繁藤支部「ひながた勉強会」
日　時　5月25日（日）13:30～15:30
場　所　繁藤詰所4F大広間
たくさんの方のご参加お待ちしております。

【少年会】
○こどもおぢばがえり申込み方法について
3月26日の団長会でインターネット申込みに必要な「申込キー」が、全教会分配布されました。まず責任者登録をして下さい（6月20日10:00より登録可能になります）。7月1日10:00より、こどもおぢばがえりオフィシャルサイトの申込フォームより申込みが出来ます。申込みが出来るのは、帰参予定人数・カレー食数になります。カレー食数には、1日の上限がありますので、上限に達した場合は申込みが出来なくなります。準備の都合上、7月20日までに一度申込みをして下さい。不明な点は団長までお問い合わせ下さい。

【初席】
藤　広　上藤智史（1月）
實彌原　田村諭登（2月）

【おさづけの理拝戴者】
北大津　星野進仁（2月）

【教人資格講習】
紋湧　中尾　恵（2月）

天理教婦人会
第107回　総会

教祖140年祭
たちばな、
おぢばへ。
越知
愛豫
川之江
高知
高岡
繁藤
伊野
天理教
たちばな会おぢば帰り団参
2025 6.29 sun
●おつとめ／当日10時30分より、七大教会が本部神殿に集まり、
拍子木を入れての「おつとめ」をつとめさせていただきます。
団参の詳しい内容はホームページ・SNSをご確認ください
https://tachibanakai.net
情報は随時ホームページや SNS などで発信予定です。
まずはこちらの公式 LINE をぜひご登録ください。
LINE
たちばな会おぢば帰り団参実行委員会

教祖１４０年祭　三年千日の活動方針

明日に希望を、今日を陽気に

～ひながたを心に、プラスワンの誠真実を～

実践目標

教会に人をお連れし、たすかる道を伝えよう
誠の理を、日々に働かそう
おさづけの取り次ぎ、チラシ配りの推奨
天理カードの登録推奨（目標 10,000 人）

教えに親しみ、ひながたを心の頼りに明るく歩もう
信者の栞を毎日拝読する
ご守護に気づき、身近な人に信仰を伝えよう
お道と社会に貢献できるようぼくを育てよう

ふしから芽が出るご守護をいただこう
心を定め、日々の理づくり・徳積みに励もう
「声は肥」旬を外さないよう＋１の声がけを
月次祭を賑やかに勤めよう（仕切り月の実施）

繁藤公式 LINE で講話やブログなどを配信しています。
ぜひご登録ならびにご紹介をお願いします。

天理教繁藤大教会
SHIGETO